指定管理者による管理運営の実施状況報告

１　施　　設　　名：　柳川古文書館

２　指定管理者名：　柳川市

３　指　定　期　間：　令和6年4月1日～令和11年3月31日

４　施設設置目的：　筑後地方に多く残る古文書等の収集、保存及び整理（展示）

５　管理運営についての点検結果（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（１）点　検　方　法：　事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。

（２）点　検　結　果：　別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	・旧柳河藩領域に残る多数の古文書等を収集及び保存するとともに、県民に理解しやすいように調査及び整理を行い、公開する。	・古文書等史料の寄贈（9件）、寄託（1件）を受けたほか、購入（1件）により史料を収集した。 　また、収集した史料の整理を「柳川市史編さん」事業と連携しながら進めるなど、古文書館設置の趣旨に基づき古文書史料の所在確認と収集活動を実施した。
②施設利用及びサービス向上	・郷土学習等、地域住民の生涯学習の場としても活用できるよう、古文書への関心を高め、読解力をつけるために、古文書講座を開催する。 ・観光地に立地していることを鑑み、地域住民のみならず観光客にも利用されるような活動を企画する。	・古文書解読講座を実施した。 （初級編・中級編・応用編：毎月1回（R7年度は5月～2月、10回）、入門講座：3回（8月）） ・企画展「松井家・立石家のおひなさま」などの企画展・常設展等を実施し、地元に密着した企画・展示を行った。 ・市内外での各種講座への講師を11回派遣した。 ・入館者数　4,883人（対前年度比：108.2%　R6年度4,511人）（対R1年度比：108.5%、R1年度4,497人） ・高齢者や障がいのある人に対する配慮として展示パネルを見やすい位置に配置し、文字を大きく表示するなどの取組を行っている。
③経営（収支）改善	・報酬等、人件費の抑制に努める。 ・需用費の支出軽減に努める。	・委託料実績 12,880千円（対前年度比102.2% R6年度12,602千円）（対R1年度比117.7% R1年度10,940千円） ・柳川市の「市史編さん」事業と連携し、効率的に調査を進めるなど経費節減に努めている。
④職員確保方策及び健全な財政基盤	・館の運営に必要な専門的知識を有する職員の確保に努める。	・館の職員が「柳川市史編さん」事業を担当する学芸員を兼務するなど、史料調査や閲覧及びレファレンス活動に支障がないようにしている。
⑤施設管理上の個別事項	・防火設備を充実させ、その保守点検を定期的に行うことで史料の保全に万全を期す。 ・書庫内の環境を整え、薬剤によらない文化財の管理を行い、除湿機の設置による適切な温湿度管理に努める。	・館の夜間、休館日の警備及び消防設備の保守点検業務は民間業者に委託し、万全の体制で史料を保存している。 ・史料管理に関し、燻蒸による殺虫殺卵を停止して薬剤だけに頼らない管理手法（総合的有害生物管理）を実施している。具体的には、書庫内で常時トラップによる虫の捕捉調査を行って書庫内環境を調査するとともに、定期的に書庫内、書棚などの清掃を行った。また、新たに収蔵することとなった史料については、二酸化炭素での殺虫、及び本館である九州歴史資料館の燻蒸庫利用による殺虫で対処した。 ・安全対策・危機管理に関しては、機械警備（通年）、各設備の適宜の保守点検実施により適切に対応している。

②点検結果

□ A＋ （提案内容を上回った） ○ A （提案内容をやや上回った） □ B （概ね提案内容どおり） □ C （提案内容をやや下回った） □ D （提案内容を下回った）	【総合コメント】 古文書解読講座の実施や各種講座への講師派遣を行うなど教育普及活動に努めている。 地域の特性を活かして「松井家・立石家のおひなさま」等、地元に密着した展示を行っている。 各種レファレンスへの回答や諸史料の提供も多数行っており、専門性は高い。 集団での来客が多かったことや北原白秋展示の影響により、入館者数は前年に比べて高い数値である。 集客力を高めるべく、趣向を凝らした展示・イベントの実施を検討していく必要がある。